

地域と協同の 研究センターNEWS

2022年1月25日発行
209号

新しい年を迎えて

鈴木 稔彦（特定非営利活動法人地域と協同の研究センター代表理事）

年頭のごあいさつを申し上げます。一昨年からのコロナパンデミックは、私たちの暮らしに大きな変化をもたらしました。当たり前前に思い描いていた日常がどんどん奪われ、医療さえ十分に受けられないままに生命が奪われていくという現実を目の当たりにして、不安は募るばかりでした。この2年間は、私たちはどのような社会を築いていくのか、私たちの使命はなんなのかをこれまで以上に考えさせられた毎日でもありました。

そのような日々が続いていた昨年の12月、国際協同組合同盟（ICA）世界大会が韓国で開催されました。世界中の協同組合人が集まって、様々なテーマで熱心な議論がされましたが、パンデミックによる移動制限や感染対策として歴史上はじめてオンラインでの参加が可能になった大会であり、地域と協同の研究センターからも多くの参加がありました。

私にとって初めての世界大会は画面越しにも熱気溢れる会場の空気を肌で感じ、120年以上のICAの歴史の一部に直接触れることができたように思われました。なによりそれぞれの地域での実践は協同組合に関わる一人として共感があり一つひとつが心に響くものでした。

今、世界は貧困や飢餓、差別、戦争、温暖化による気象災害など、大きな危機に直面しています。これらの危機の根源は、犠牲や矛盾を他者におしつけ、人々の分断を拡大させるような社会の発展のあり方にあります。つまり私たち自身が作り出した危機です。それらの危機がコロナによってさらにひろがり深刻化しています。

今回の大会を契機に、新しい時代に向けて協同組合のアイデンティティの見直しの議論がすすめられることになるそうです。ロジデールの時代からの大切な宝物を受け継ぎながら、新しい技術や環境の変化に対応し、現在直面している大きな危機に立ち向かっていけるようにしていかなければなりません。その中で私たちの周りの日々の小さな実践がどのような意味と役割を持っているのかを明らかにしていくことは、我々研究センターにとっての大切な使命の一つではないかと思えます。

今年も多くのセミナーや研究会などが計画されています。2月には18回目となる「東海交流フォーラム」があり、コロナ禍の下でのそれぞれの地域における実践が報告され、議論がされる予定です。私たちの実践を協同組合のアイデンティティと照らし合わせて、方向性を見出していく大切な機会にもなりますが、それを困難な状況におかれている総ての人たちにとって、少しでも未来への希望につながるようにしていきたいと思えます。

本年もどうぞよろしくお願いいたします。

（すずき としひこ）

研究センター1月の活動

6日（木）金城学院大学「協同組合論⑩」	22日（土）生協の（未来の）あり方研究会
7日（金）三河地域懇談会「豊橋生協会館へ寄らまいかんミニ企画」	三河地域懇談会 やなマルシェ見学会
13日（木）金城学院大学「協同組合論⑩」 / 第8回協同の未来塾	23日（日）2021協同集会在東海
15日（土）難民食料支援 学び語り合う会	ツナギナオス「協同による新しい日常」
16日（日）2021協同集会在東海分科会	28日（金）三重地域懇談会三重のつどい
「福祉医療ネットワークと地域共生社会」	研究フォーラム地域福祉世話会
17日（月）第8回常任理事会	29日（土）第6回共同購入事業マイスターコース
19日（水）三河地域懇談会世話人会	友愛協同セミナー
21日（金）第9回組合員理事ゼミナール	31日（月）愛知の協同組合間協同相談会

※ 各行事は新型コロナ感染対策をとって実施しています。

目次	新しい年を迎えて	鈴木稔彦	1	尾張地域懇談会「地域のつながり・新型コロナの影響・会員	4
	三河地域懇談会「豊橋生協会館へ寄らまいかん」		2	アンケートの取り組み	
	岐阜地域懇談会「恵那市中野方の地域づくり」		3	情報クリップ	5
				書籍紹介「半農・半X これまで・これから」	8

「三河地域懇談会」豊橋生協会館へ寄らまいかん オンラインミニ企画 第4弾 開催しました

防災用品を手にとることができ、防災意識が高まりました。日ごろの備えが大事です！ 報告：伊藤 小友美（事務局）

私たちは、三河地域に暮らしていたり、仕事をしていたり、ご縁のある研究センター会員で構成する会です。くらしや地域のことを交流・懇談することを大切に、さまざまな学びの場を世話人会で相談し、開催しています。三河地域のことを知るために、ちょっとした見学会、旅を企画することもあります。今年度、総会で確認した方針は、【今までの活動の積み重ねを大切に、①地域を知る、②食と健康を軸に協同の取り組みについて学ぶ、③粋な老い支度について学び、交流する、④南海トラフ地震等の災害に備えるために学び、交流する活動に取り組みます。】です。

今年度は「豊橋生協会館へ寄らまいかんオンラインミニ企画」を2回開催しました。このニュースでは1月7日の企画について報告します。開催にあたっては、東海コープ事業連合生活雑貨事業部の畑佐航平さんにご協力いただきました。「枕元セット」と「バスタオルでつくる防災頭巾」については世話人の田所登代子さんに講師をお願いしていましたが、急遽参加が難しくなりましたので概要を事務局からお伝えしました。今後あらためて詳しいお話をお聞きする予定です。

テーマ：「命を守る～枕元セットと防災用品」（資料ご希望の方はご連絡ください。）

日時：1月7日（金）13時～15時 オンライン発信会場：豊橋生協会館

講師：木村陽一郎さん（(株)丸藤 防災士） 秋月雄一さん・高島亜貴さん

参加者：オンライン参加 3名 会場参加 10名

『いざ』という時 慌てないために・・・ 木村さんのお話のポイント



会社は神戸にあるので、阪神淡路大震災も経験しました。地震以外にも豪雨などいろいろな災害が起きています。普段から『いざ』という時どう行動すべきか、どのような備えが必要かを考え、家族で話し合う機会も持ちましょう。いつ起きてもいいように意識を持つだけで命を守れます。

地震に遭遇した場合

自身の命を守ることが一番大事。机の下などにもぐってまず頭、体を守りましょう。阪神淡路の時、朝だったので寝ている人が多く圧死した方が多くいました。神戸に住んでいる方は寝室に気をつけていて、タンスのある部屋には寝ないようにしています。自宅の脱出ルートを考えておくことも大事です。玄関に障害があると開かないので玄関以外の出口を見つけておきましょう。避難路を確認することも大事です。自宅から避難所までのルートを確認しましょう。

命を守り、揺れがおさまったらまずガスの元栓を閉め、火が出ていたら消火しましょう。状況に応じて屋外へ避難する時は、電柱や看板、塀を避けましょう。なるべく道の真ん中を通って避難する。近所との連携がポイントです。地域密着指数を上げることです。何かあった時にご近所で声がかげ合うことができるようにしたいものです。

水害に備える

水が外から入ってくることがあるので水のうを準備したい。ごみ袋を二重または三重にして、水を半分程度まで入れ、きつく縛ると簡易水のうができます。家になるべく水を入れない工夫が必要。ポリタンクとレジャーシートの併用（水を入れたポリタンクを並べ、レジャーシートで包めば土のう代わりになります）も有効。水害の時には、風呂場やトイレ、洗濯機の排水溝から逆流することがあるので排水溝を防ぎましょう。

防災用品では「備蓄ラジオ（手回しで充電できるもの）」「静音防寒・防風アルミシート」がとても好評でした。「防災士の選んだ19点セット」（[丸藤ホームページ参照](#)）もおすすめです。

秋月さんからは、「何かあったときに助けてくれる人がまわりにいること、地域のつながりが大事です。こういう活動をさらに活発にしていきたい。」というお話があり、私たちの取り組みに確信を持ちました。これからもみなさんと一緒に学び交流することを続けたいと思います。

（いとう こゆみ）

地域と協同の研究センター 岐阜地域懇談会世話人会 恵那市中野方の地域づくり

「里山の恵みを活かし、みんなが生き生き、安心して暮らせるまちに」

報告：井貝 順子（岐阜地域懇談会世話人）

岐阜地域懇談会は、棚田のある地域のくらしを守り、次世代につなぐ恵那市中野方（えなし なかのほう）の地域づくりについて学んできました。2021年7月1日中野方を訪問した際、参加した世話人会のメンバーは『まちづくりの組織図を見て、びっくり』しました。中野方地域協議会事務局遠山史加（とおやま しか）さんからお聞きする、人口1483人高齢化率42.75%の町で取り組まれている住民の支え合いの活動報告について、「なぜこのような活動ができるのか？」と話題が集中しました。2021年4月に団体間の連携を図るため、「中野方まちづくり連絡会」ができたとのことで、その会長さんから自主活動の活発なわけ、連絡会設立に至った経過について、2021年11月29日（月）にお話を伺うことになりました。

（1）中野方のまちづくりについて 中野方地域協議会中野方自治振興会会長 柘植 昭男（つげ あきお）氏

中野方の基本情報

- 人口（令和3、11、1）1483人⇒恵那市の人口の約3%・・・5年前（平成28年）：1624人 ▲140人減
- 世帯：551世帯 ■高齢化率：42.75% ■面積：約24km² 標高450m～660m 85%～90%が山林
- 農地面積150ha ■農家戸数230戸（担い手の高齢化が進む）
- 耕作面積100ha（高齢化に伴い耕作放棄増加傾向）

お話は 中野方町の移住推進PR動画の紹介から始まりました。中野方町が、名古屋から恵那駅まで1時間と近い恵那市にあること、自然豊かな美しい町で、子どもを大切にしている、医療や福祉も充実している住みやすい町だと実感できる内容でした。若い人に町外から来てほしいという願いからつくられた動画です。柘植さんは、この会長職について2年目になります。30年間名古屋に通勤していました。朝6時に出て夜9時～10時に帰ってくる生活を続けてきました。2年前に退職して会長に就かれました。人口減少が続く中野方町の現状（このままの状態が続けば、町が維持できなくなってしまう）を打破し、将来にわたって中野方町に住み続けられるよう、誰かがやってくれるのではなく、町民が一人称になって、私がやらなくては・・・と考え、自主的に参加するまちづくりを目指す活動をしています。中野方のまちづくりは、『中野方地域計画』に基づいて行います。地域計画を住民の皆さんに理解してもらうためにカラー印刷したダイジェスト版を、全戸配布しました。柘植さんが会長をされている「中野方まちづくり連絡会」は、28団体で構成されています。団体間の連携をとり、活力あるまちづくり、健全な子どもの育成活動を目指しています。ほかの地区にはない、中野方の特色をあらわしているのが、以下の団体です。

- 農事組合法人不動滝やさいの会・・・農産物・手作り加工品販売 地元の子どもたちへの食材として提供
- 株式会社えな笠置山栗園・・・笠置山にある広大な栗園（約20ha）6500本の栗の木
- NPO法人まめに暮らそまい会・・・住民によるボランティアが中心となって、高齢者支援や育児支援を行っています。
- NPO法人恵那市坂折棚田保存会・・・専門の石工集団が築いたとされる石積み棚田の保全と、棚田地域の農業の活性化
- 農事組合法人アグリアシスト中野方・・・耕作放棄地を減らすため 子どもたちへ農業を知らせる活動
- 笠周木の駅実行委員会・水源の森実行委員会・・・森林整備と商店振興と地域活性化の取り組み
- 移住定住委員会 おんさいなかのほう・・・旧教員住宅を改修 定住促進住宅「住まいる中野方」完成 広報活動
- 望郷の森キャンプ場を運営する会・・・キャンプ施設を市から譲渡 キャンプ場の整備と増設 学校も利用
- 農泊推進協議会・・・農家に泊まって田舎暮らしを体験 観光産業の活性化

今年は、新しい各区自治振興会長へ、“移住定住講習会”を開催しました。なぜ、中野方への移住を勧めているのか中野方の現状を知ってもらい、どんなことに取り組んでいるのかを知って頂きたいという願いからです。柘植さんはなぜ、この活動をやられているのかという、世話人会メンバーからの疑問の答えはシンプルでした。「この町が好きだから」ここに育つ子どもたちが、この町を好きになってもらうための活動をすすめているという熱い思いが伝わったお話でした。中野方に定住された方の言葉を紹介します。『地域がしっかりしているので、我々のような新参者が特別何かをしなければならないようなことは少なく、かえって守ってくださる余裕があり、私たちはそれに甘えさせてもらっています。よく聞くような人間関係でのトラブルもありません。有難いことに、子どもがいることで地域の方が積極的に受け入れてくださっていると感じます。』

（いかい じゅんこ）

地域のつながり・新型コロナの影響・会員アンケートの取り組み

向井忍・尾張地域懇談会世話人

尾張地域に居住地または勤務先がある会員は研究センター全体の約半数を占めます。尾張地域懇談会では、会員が参加しやすい活動にするにはどうしたらよいか 10～12 月の懇談会で話し合い、各会員の状況や関心事、参加条件を伺うアンケートを実施することとしました。テーマは次の三つです。

- I. 尾張地域懇談会では、地域を「人と人がつながるエリア」として捉えることを話し合っています。アンケートでは、各会員が地域でどのような団体や組織に関わっているかをつかみます。
- II. 日本生協連が組合員対象に実施している 2021 年全国組合員意識調査の結果では「新型コロナによる生活や仕事への影響」「インターネット普及による人のつながり方の変化」が大きな特徴として表れています。アンケートでは、各会員ではどのように実感しているかをつかみます。
- III. 尾張地域で取り組まれている活動や団体について、各会員の関わり方や関心及び、尾張地域懇談会としてどのような活動であれば参加しやすいかを、アンケートで尋ねます。

新型コロナ下、注目される協同組合とNPO等のつながり

下記のように、先行実施（Web 回答）調査では 7～8 割の会員が「自治会・町内会」「協同組合」「NPO・市民活動」に所属しており、新型コロナ下で協同組合やNPO等が役割を發揮したと回答しています。アンケート用紙は本研究センターニュースに同封し、回答の全体は 2 月 12 日（土）の第 18 回東海交流フォーラムで報告し、これからの地域のつながり方、オンライン化の現状と活用方法、研究センターの役割を話し合う予定です。

設問② あなたが加入している団体や組織について、新型コロナ禍で「(1)社会で役割を發揮したと思われるもの」「(2)あなた自身にとって、加入していてよかったと思ったもの」「(3)加入している実感やつながりに変化がなかったもの」を教えてください。(回答 32 名の実数)

設問①以下の団体や組織で、あなたが現在加入しているものを教えてください。(複数回答)		設問② 注		
		(1)	(2)	(3)
1 自治会・町内会	26	5	2	17
2 PTA	1	0	0	1
3 婦人会、青年団、消防団、老人会などの地域組織	5	1	0	3
4 社会福祉協議会などの地域福祉の組織	6	6	0	1
5 NPO、市民活動グループ、ボランティア団体	22	12	9	6
6 趣味や文化・スポーツ関係のグループやクラブ	10	2	4	3
7 産直・共同購入など消費者運動のグループ	4	1	3	1
8 労働組合や社会活動のグループや団体	11	7	5	2
9 教会など宗教や信仰によるグループや団体	2	0	0	2
10 地域生協・大学生協・医療生協・農協など協同組合	23	14	8	4
11 社会福祉法人	3	3	1	0
12 学校・大学など教育・研究に関わる団体	12	6	5	2
13 自治体・行政機関等	6	3	0	2
14 加入していない	0			

注：設問②で複数回答があり、合計が設問①を上回る団体があります

(むかい しのぶ)

情報クリップ



co-opnavi 2022.1 No. 836

「CO-OP 商品 60 周年総選挙」で集まった組合員の声を生かす

日本生活協同組合連合会 2022 年 1 月 A 4 判 36 頁 367 円 (消費税込)

<新春対談>

「生協の 2030 環境・サステナビリティ政策」
第三者評価委員会 委員

聖心女子大学 3 年 須藤あまねさん
日本生協連 土屋敏夫 代表理事会長

特集

「CO・OP 商品 60 周年総選挙」

で集まった組合員の声を生かす

<今日も笑顔のコープさん 生協の仲間のお仕事拝見>

コープしが 岡田八寿子さん

<想いをかたちに コープ商品>

CO・OP 小いわしの甘酢漬け

<生協大好きママコブ山さんの 教えて! CO・OP 商品>

CO・OP コクの旨味のまるやか鶏白湯ラーメン

<コープ商品 虫の目チェック!>

CO・OP の冷凍えび おいしさの秘密♪

<ZOOM IN 生協の店舗づくり>

大阪いずみ市民生協 大野芝店

<日本全国 宅配現場におじゃまします!>

コープ東北サンネット事業連合

<生協の仲間づくりの今>

エフコープ

<SDGs REPORT>

コープぎふ

<明日の暮らし ささえあう CO・OP 共済>

ララコープ

<この人に聴きたい>

ミュージシャン・ラジオ DJ

藤原 岬さん

<ほっと navi>

エフコープ

月刊 J A 2022.1 vol. 803

世界の協同組合運動と ICA 大会①

全国農業協同組合中央会 2022 年 1 月 A 4 判 48 頁 年間予約 5,204 円 (消費税込)

新春対談

持続可能な食と農・地域、JA の実現に向けて

国谷裕子 (ジャーナリスト)

× 中家 徹 (JA 全中代表理事会長)

特集 世界の協同組合運動と ICA 大会① 栗本昭

スゴイ農業、スゴイ JA

JA 自己改革の現場から

ふれあい・結びつきを大切に、地域の活性化への貢献

一わが国屈指の大型 JA である JA 兵庫西の挑戦

東口昌広

童門冬二

きずな春秋 — 協同のこころ —

協同組合の理解促進に向けて

第 10 回 摂南大学における農学部の新設と協同組合との連携

北川太一

トピック①

変革もたらすデジタル技術「DX が農業の未来を切り拓く」

JA 全中 広報部 広報課

協同組合の広場

(日本生協連、JF 全漁連、全森連、パルシステム)

協同組合と SDGs 第 32 回

SDGs の実現に向けて国内外で高まる労働者協同組合法への期待

中野 理

トピック②

人と人とのつながりや食のつながり、

胃袋から見る現在の課題

「産」と「消」を「環」でつなぐー歴史から考える未来

湯澤規子

トピック③

JA における組合員組織の意義と活性化方策

西井賢悟

JA 全中 マンスリーレポート 12 月

海外だより [D.C. 通信] 連載 127

アメリカでは猛暴的な物価上昇が続く

伊澤 岳

生活協同組合研究 2022.1 VOL. 552

**ポストコロナ時代における生協の役割を考える
—新型コロナウイルス感染症禍は生協に何を問いかけたのか—**

公益財団法人 生協総合研究所 2022 年 1 月 B5 判 72 頁 定価 550 円 (消費税込)

■巻頭言

「協同組合のアイデンティティ」を深める 1 年に！
藤田親継

特集

**ポストコロナ時代における生協の役割を考える
—新型コロナウイルス感染症禍は生協に何を問いかけたのか—**

開会の挨拶 中嶋康博
危機を越えて人間主体の社会を再創造する
一人間の未来を取り戻すために— 神野直彦
地域のつながりの現状と課題 石田光規
第 1 部 質疑応答 山崎由希子・神野直彦・石田光規
組合員の暮らし方・働き方と生協利用 中村由香
組合員の生活様式の変化と生協の利用状況・イメージ
—日本生活協同組合連合会「全国生協組合員意識調査」
の結果から— 宮崎達郎

第 2 部 質疑応答 山崎由希子・中村由香・宮崎達郎
閉会の挨拶 藤田親継

■本誌特集を読んで (2021・11) 竹内明子・竹野ユキコ

■新刊紹介

石田正昭編著 『いのち・地域を未来につなぐこれからの協同組合間連携』 三浦一浩
田口一成 『9割の社会問題はビジネスで解決できる』 山崎由希子

●公開研究会

生協共済の未来へのチャレンジ (2022.1.17)
エネルギーから地域ガバナンスを考える (2022.2.17)

文化連情報 2022.1 No. 526

がんばってます！女性常勤役員 職員がいきいきと輝く厚生連の未来へ

日本文化厚生農業協同組合連合会 2022 年 1 月 B5 判 96 頁 文化連情報編集部 03-3370-2529 * 注

新年の御挨拶

私たちは厚生連医療・農協福祉を通じて、
コロナ後の社会の再建に貢献します。八木岡務
役職員一同

新年の御挨拶

新春座談会

がんばってます！女性常勤役員
職員がいきいきと輝く厚生連の未来へ
上田幸子・岡田則子・東 公敏

協同活動による組合員健康管理活動の実践

日本農村医学会金井賞を受賞して 宮永 均
「みどりの食料システム戦略」と日本農業の方向 田代洋一

二木教授の医療時評 (198)

コロナ危機後の医療提供体制—予測と選択 (下) 二木 立

アメリカの医療政策動向 (17)

2022 年度予算案と医療制度改革の主な内容 高山一夫

変わる日本のまちづくり (19)

商店街で支えられ商店街を支える
—NPO 法人麻生キッチンりあん (札幌市)— 杉岡直人・畠山明子

私たちは何を食べているのか (12)

有機給食で脱農業・有機自給国家を実現 安田節子

ドイツの対 COVID-19 戦略

接種率で差がついた州の対応 吉田恵子
多様な福祉レジームと海外人材 (44)

ケアをする人々の第 2 世代 安里和晃

臨床倫理メディエーション (57)

対話と会話 中西淑美

医療メディエーションの IPI を学ぶ

厚生連医療メディエーター実践者
スキルアップ研修会を開催

アフガニスタンから見た世界と日本 (20)

アフガニスタンの明るい将来のために日本にできること
(前半) レシヤード カレッド

デンマーク & 世界の地域居住 (151)

オランダの家庭医と社会的処方 (1) 松岡洋子

熱帯の自然誌 (70)

第二次世界大戦と日本人 (3) 安間繁樹

◆第 23 回厚生連医療経営を考える研究会のご案内

□書籍紹介 介護現場をイキイキさせるマネジメント術

◇【資料】医療福祉団体等のコロナ関連、
医療施策等への対応の紹介

▼線路は続く (159)

名月の里をゆく 篠ノ井線 西田健史

▼最近見た映画

ラストナイト・イン・ソーホー 菅原育子

▼虹のかけ橋 —新宿農協だより—

生協運営資料 2022.1 No. 323

「生涯にわたる心ゆたかな暮らし」をデジタル変革の推進で実現する

日本生活協同組合連合会 2022 年 1 月 B5 判 108 頁 886 円 (消費税込)

巻頭インタビュー

●わが生協、かくありたい!

「事業を伴う運動体」として、組合員の声を聴き、声に応える取り組みを通じて地域にお役立ちする

ラコープ●代表理事 理事長 石原 茂氏

特集 「生涯にわたる心ゆたかな暮らし」を

デジタル変革の推進で実現する

- 1 「日本の生協の 2030 ビジョン」実現のため
DX-CO・OP プロジェクトが目指していること
DX-CO・OP プロジェクト プロジェクトリーダー
コープ東北サンネット事業連合●常務理事
物流 システム部管掌 河野敏彦氏
人事教育部 採用担当 武藤有紀氏
- 2 レシピから材料を一括注文できるスマホアプリ
「CO・OP chef」で献立を考える組合員の負担軽減を目指す
コープ東北サンネット事業連合●
システム部宅配グループマネージャー
兼デジタル推進担当課長 塩松弘充氏
宅配商品本部カタログ・インターネット商品企画部門統括
金子剛氏
- 3 宅配の配達コースの設計に AI を活用することで、
配達効率の高さの維持と可視化を実現する
東海コープ事業連合●代表理事 専務理事 根崎周一氏

- 4 創造力ある事業と経営のデザインなど、経営者として
なすべきことに専念するため、デジタルを最大限に活用
する

有限会社そびや 代表取締役 株式会社EBILAB CEO

小田島春樹氏

- 5 デジタルトランスフォーメーション時代の

組織と人材のあり方

オムロン株式会社●イノベーション推進部

インキュベーションセンタ長 経営基幹職 竹林一氏

連載

●全国生協の宅配事業・宅配センター運営を学ぶ

第 44 回 短時間で作れる本格的な料理を提案し

組合員の暮らしをサポートする「お料理セット」

パルシステム連合会●

産直事業本部 第2事業部 農産加工課 副主任 石井雅之氏

産直事業本部 第2事業部 農産加工課 新塚桃子氏

商品開発本部 第1商品部 日配課 副主任 丸橋桃子氏

●シリーズ わが生協の「2030 年ビジョン」

第 5 回 組合員と役職員の声を出発点にビジョンを策定

その実現に向け「声の循環」を継続していく

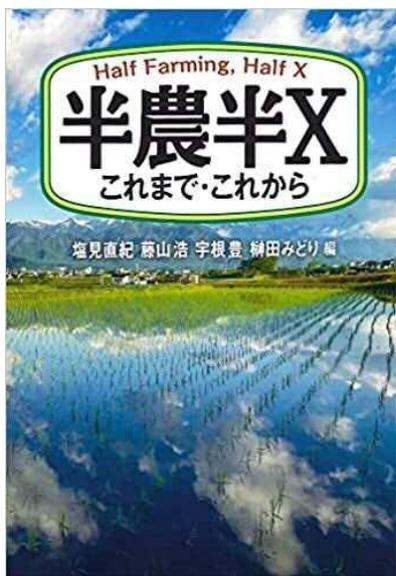
コープいしかわ●代表理事 理事長 大谷 学氏

総合企画部 マネージャー 佐々木智一氏

地域・協同の運動、協同組合に関する文献資料、協同組合・生協関係の研究所などの調査研究成果や研究センター会員の研究成果などから、比較的入手しやすいと思われるもの、寄贈いただいたもの(♣)などを中心に順不同で紹介しています(主な内容は目次等から事務局が要約しています)。詳細は研究センター事務局までお問い合わせください。

書籍紹介

吉野隆子会員からの書籍紹介



半農半X これまで・これから

塩見 直紀 (著, 編集), 藤山 浩 (著, 編集), 宇根 豊 (著, 編集),
 榊田 みどり (著, 編集) 出版社: 創森社
 発行日: 2021年11月15日 A5判 288p 定価: 2,200円税

目次

- 半農半Xへの道一序に代えて
- 半農半X GRAFFITI (4色口絵)
- 第1章 半農半Xの誕生、背景から射程、強度まで 塩見直紀
- 第2章 報告 持続可能で農のある多様な暮らし方 佐藤剛・麻衣子ほか
- 第3章 報告 半農半Xの動態と地域的展開 阿部巧ほか
- 第4章 報告 支援による半農半Xは「農」志向へ 三好かやの
- 第5章 ローカルに生き 循環型社会を創り出す 藤山浩
- 第6章 農本思想から読み解く半農半Xと心根のありか 宇根豊
- 第7章 半農半X、兼農・多業への潮流と新たな展開 榊田みどり
- 困難な時代を生き抜くために一あとがきに代えて
- 執筆者紹介・執筆分担一覧

内容紹介 (創森社ホームページから)

「半農半X」とは、持続可能な農のある小さな暮らしをベースに、天与の才を世に活かす生き方。平たくいえば農業を営みながら自分の好きなこと、やりがいのある仕事に携わる生き方ということになる。

田舎暮らしや新規就農、定年帰農など農的暮らしへの関心は高まっているが、いざ実現するとなると所得はもちろん、移住先の就農・就業の機会や住まいの確保など生活基盤づくりのハードルがそれなりに高い。その点、半農半Xは当初の経済的負担が比較的少なく、段階的な取り組みで就農・就業の目途がつくことなどもあり、若い世代を中心に受け入れやすく、普遍性のあるものとなっている。

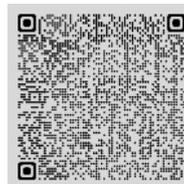
低成長、脱成長の現代。ニューノーマル(新常态)と呼ばれる働き方が拡大しており、本書は、半農半Xに取り組む方々の現場での実践報告を主に関係者、研究者などの視点、指摘を加え、その意義・役割と具現性、可能性を照らし出すことを企図している。

地域と協同の研究センター2月の予定

- 2日(水) 三河地域懇談会世話人会
- 5日(土) 第9回協同の未来塾
- 8日(火) 第9回常任理事会
- 12日(土) 第18回東海交流フォーラム
- 20日(日) 第7回共同購入事業マイスターコース
- 26日(土) 第10回協同の未来塾

地域と協同の研究センターFacebook
 下記QRコードでご覧ください。

Facebook QRコード



※企画は新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止・延期・オンライン参加のみとなることがあります。参加の前にホームページ等でご確認ください。